

第3章 人口と都市空間

1 人口

本市は、昭和30年代から大阪都市圏への人口流入に伴い人口が急激に増加し、昭和62年(1987年)には35万人近くに達しました。その後、地価高騰などにより人口は減少に転じましたが、平成7年(1995年)以降再び増加し、平成15年(2003年)には35万人に達しています。その要因としては、マンション建設が進み、転出者を上回る転入者を受け入れたこと、そして中でも30歳代の転入が進み、一定の出生数が維持されたことなどが考えられます。

地域別にみると、住宅供給が進んだ千里山・佐井寺地域や大阪都心に近く利便性の高い豊津・南吹田地域で人口増加が続いています。一方、千里ニュータウン地域やJR以南地域では、住み替えなどによる子育て世代の転出など人口減少とともに高齢化が進んでいます。

将来人口及びその年齢構成については、国や大阪府でも人口減少と少子・高齢化が一層進むと見込まれていることから、本市もその例外ではないと思われますが、今後も魅力と活力あるまちを維持していくためには、市全体でのバランスのとれた年齢構成が重要と考えられます。そのため、人口減少と少子・高齢化が急速に進む地域では、まちの再生を積極的に図るとともに、人口増加が続く地域では、環境と調和した開発を誘導するなど、市民との協働によるまちづくりを進めていく必要があります。さらに、本市において引き続き見込まれる子育て世代の住宅需要にも留意する必要があります。

人口は、経済状況や国・府の広域的計画による影響が大きく、将来人口を予測することは非常に困難ですが、子育て支援策の積極的な推進や良好な住宅の維持・誘導などの定住性の高い魅力ある環境整備の推進を前提として、目標年次である平成32年(2020年)の将来人口を35万人と設定します。

2 都市空間

(1) 地域ごとの特性を生かした都市空間の形成

本市は、地形的条件や市街地の形成過程の異なる地域から構成され、それぞれの地域が豊かな個性を持っています。

これらの地域ごとの特性を生かしながら、市民の様々なニーズに対応できる多様で魅力ある都市空間の形成に努めます。

(2) 拠点市街地・都市機能軸の形成

本市では、鉄道が縦横に走っており、その駅周辺の地区を中心に、様々な市民や事業者による活発な都市活動が行われています。また、本市は他都市に誇るべき高度な学術研究機関の集積や広域的な文化・レクリエーション機能が集積する地区を有しています。このような地域の拠点となるべき地区を、拠点市街地として位置づけ、それぞれの地区の特性に応じた機能の充実に努めます。

また、これらの拠点市街地間を結んで人・物・情報が流れることで、交流が促進され、都市活動はより活発化していきます。このような交流のための軸的な空間を都市機能軸として形成し、都市間や地域間の連携及び市域全体でのバランスのとれた多軸ネットワークの形成を図ります。

(3) 人と自然の共生空間の形成

本市の大部分は市街化されていますが、丘陵部では大規模な公園や緑地が豊かな緑として育っているほか、一部に竹林やため池も残っており、平野部では河川空間に貴重な自然環境が残っています。

このような自然環境は、人が自然とふれあう空間として重要な意味を持っています。生き物の生息空間を確保するために、これらのネットワーク化を図るなど、自然と共生した市街地空間の形成に努めます。